

混迷する大阪・関西万博と BIE

写真は『2005 年日本国際博覧会公式記録』。この公式記録には、「愛・地球博」と称された愛知万博の迷走ぶりも綴られている。万博を取り仕切る BIE (博覧会国際事務局) 議長が、「跡地利用は自然破壊」などと、愛知万博に警告を投げかけた。これを地元中日新聞が 2000 年 1 月 14 日朝刊 1 面に取りあげ、愛知万博は当初の瀬戸市の「海上の森」から愛知青少年公園へメイン会場変更を迫られた。BIE の警告は、愛知万博にきわめて大きなインパクトがあった。



昨年 5 月、パリに本部がある BIE 宛て夢洲懇談会が手紙を送った。それまでも何回か送ったが、残念ながら BIE から反応はなかった。開催まで 3 年弱に迫った大阪・関西万博の課題について、あらためて BIE に直接訴えるためだ。

私が書いた手紙の草稿には、次の 5 点を指摘した。招致活動が遅れて海外パビリオンなどの建設計画が確定していない。会場の大阪湾の人工島である夢洲の汚染や液状化による安心・安全な万博への懸念。「大屋根」(リング)建設などによる会場建設費の高騰とアクセス整備。生物多様性が豊かな夢洲の自然破壊。万博会場の隣に IR カジノが誘致され、万博跡地も「エンタメ拠点」にしようとしていること。

それから 1 年余りが経過して、万博開催まで 1 年 8 ヶ月半ほどになった。読売新聞が今月 21~23 日に実施した世論調査では、大阪・関西万博に「全く関心ない」が 29%、「あまりない」が 36% だった。万博開催が迫っているのに、日本国民の大半が万博に関心を示していない。

それだけでなく、海外パビリオン建設の申請ゼロが続き(やっと 1 件目の申請があったようだが)、万博開催までに間に合うかが大きな話題になっている。国内だけでなく、国際的にも大阪・関西万博は魅力がないようだ。マスコミや建設業界から、万博の延期を求める声が出始めている。万博の「機運醸成」に水を差すような事態である。

万博協会は海外パビリオン建設を「代行」する意向を示し、時間外労働の上限規制の対象外にするよう政府に求めた。後者は「働き方改革」に逆行するものであり、SDGS をスローガンに掲げる大阪・関西万博の理念にも反するものであり、万博協会に批判が集まっている。万博の会場建設費は当初想定約 1.5 倍の 1850 億円に増額されたが、さらに増額が検討されている。アクセス整備などの関連開発を含め、コスト上昇、地元負担膨張ばかりが目につく。

このままでは、万国博覧会の長い歴史に汚点を残すことになりかねない。万博を取り仕切る BIE の率直な考えを聴きたいものだ。

(2023 年 7 月 30 日)